

現状を踏まえた今後の周産期医療対策について

【第 8 次三重県医療計画（令和 6 年 3 月策定）第 9 節周産期医療対策より抜粋】

めざす姿

安全で安心して妊娠・出産でき、産後の育児まで途切れることなく支援が受けられる環境が整っている状態をめざします。

- 必要な産婦人科医、小児科医、助産師等が確保され、安全で安心して妊娠・出産ができる環境が整っています。
- リスクの低い出産は地域の産科医療機関・助産所で行い、中等度以上のリスクの出産は周産期母子医療センター等で行うという明確な機能分担、連携体制が構築されています。
- 産婦人科医と小児科医、保健師、助産師、看護師等がセミナーや平時の交流により密接に連携し、妊娠から出産、産後まで途切れることなく適切な対応が行われています。

【現状と新たな課題】

上記の「めざす姿」を実現するため、三重県ではリスクの低い出産は地域の産科医療機関・助産所で行い、中等度以上のリスクの出産は高次医療機関である周産期母子医療センターで行うという機能分担と連携体制を構築し、各地域の人口と周産期母子医療センターからの距離に基づいて 4 つのエリアからなる周産期医療ゾーン体制をとっています。

しかし、近年、県内でも出生数が減少しており、今後も減少傾向が予測される中で、産科医療機関を取り巻く環境の変化もあり、地域の産科医療機関の分娩休止が相次いでいます。

令和 6 年度には、県内のリスクの低い分娩を取扱う産科医療機関のうち、すでに 3 機関が分娩取扱いを休止し、また 1 機関が令和 7 年 3 月末での休止を公表しています。

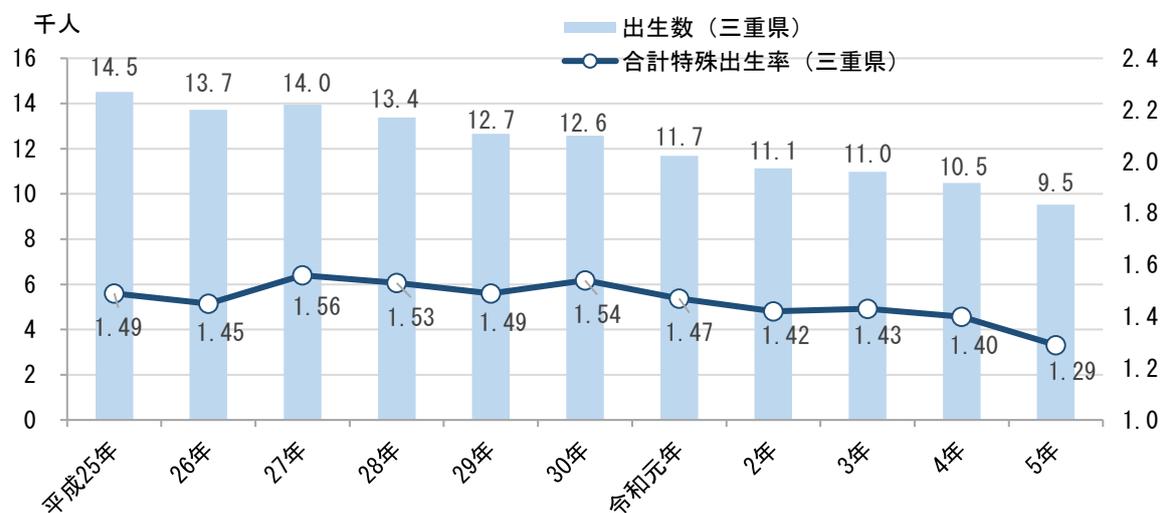
今後、地域の産科医療機関で対応可能な分娩数が、出生数の減少を上回るようなスピードで減少する場合、「お産難民」発生の可能性や、周産期母子医療センターの負担が増大し、周産期母子医療センターの本来の機能であるハイリスク分娩への対応が困難になる可能性や、三重県の周産期医療体制にも大きな影響が及ぶことが考えられます。

そのため、今後、出生数の見込み、産科医療機関の現状、地域毎の課題や意見等を踏まえた上で、三重県医療審議会周産期医療部会において、地域での分娩取扱医療機関の維持も含め、周産期母子医療センターとの役割分担及び連携体制等、周産期医療体制の再整備に向けた検討を行ってまいります。

【資料 2】

以下 参考資料

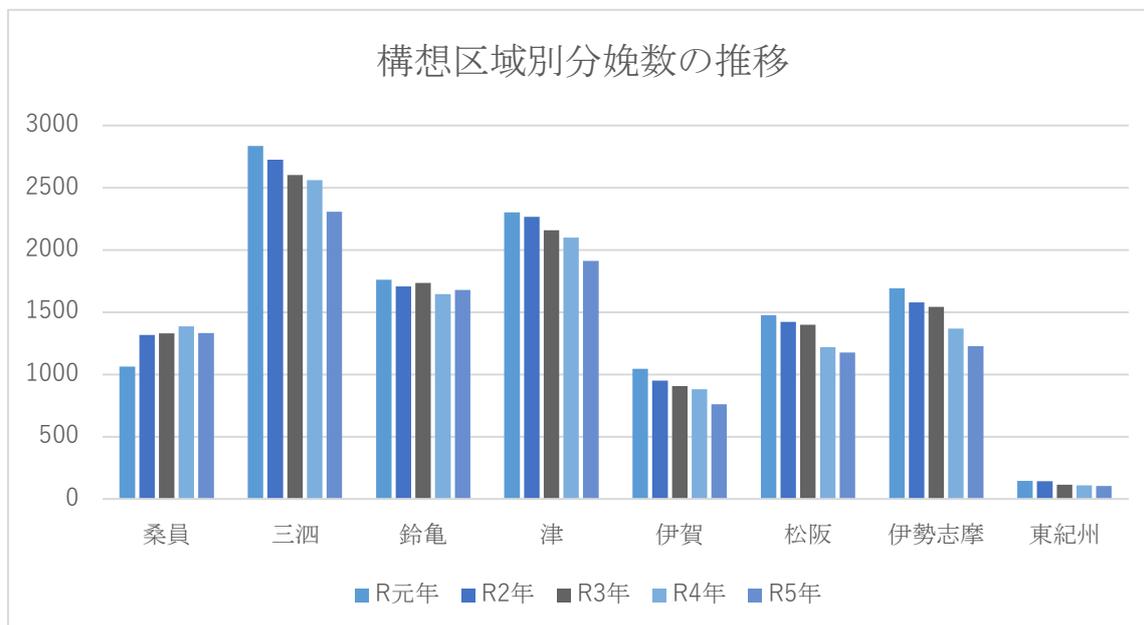
① 【出生数と合計特殊出生率の推移】



| | 出生数 (三重県) | 合計特殊出生率 (三重県) |
|---------|-----------|---------------|
| 平成 25 年 | 14,514 | 1.49 |
| 平成 26 年 | 13,727 | 1.45 |
| 平成 27 年 | 13,950 | 1.56 |
| 平成 28 年 | 13,376 | 1.53 |
| 平成 29 年 | 12,663 | 1.49 |
| 平成 30 年 | 12,582 | 1.54 |
| 令和元年 | 11,690 | 1.47 |
| 令和 2 年 | 11,141 | 1.42 |
| 令和 3 年 | 10,980 | 1.43 |
| 令和 4 年 | 10,489 | 1.40 |
| 令和 5 年 | 9,524 | 1.29 |

資料：厚生労働省「人口動態調査」

②【構想区域別分娩数の推移】



| | 令和元年 | | 令和2年 | | 令和3年 | | 令和4年 | | 令和5年 | |
|------------|--------|-------|--------|------|--------|------|--------|------|--------|------|
| 北勢 | 5,658 | (188) | 5,748 | (34) | 5,667 | (31) | 5,592 | (40) | 5,317 | (36) |
| 桑員 | 1,062 | (149) | 1,316 | (0) | 1,329 | (0) | 1,387 | (0) | 1,332 | (0) |
| 三泗 | 2,835 | (0) | 2,724 | (0) | 2,602 | (0) | 2,561 | (0) | 2,306 | (0) |
| 鈴亀 | 1,761 | (39) | 1,708 | (34) | 1,736 | (31) | 1,644 | (40) | 1,679 | (36) |
| 中勢伊賀 | 3,346 | (10) | 3,217 | (11) | 3,063 | (10) | 2,980 | (9) | 2,672 | (5) |
| 津 | 2,302 | (10) | 2,267 | (11) | 2,157 | (10) | 2,098 | (9) | 1,911 | (5) |
| 伊賀 | 1,044 | (0) | 950 | (0) | 906 | (0) | 882 | (0) | 761 | (0) |
| 南勢志摩 | 3,166 | (26) | 3,001 | (24) | 2,940 | (19) | 2,588 | (15) | 2,404 | (26) |
| 松阪 | 1,475 | (0) | 1,423 | (0) | 1,398 | (0) | 1,220 | (0) | 1,176 | (0) |
| 伊勢志摩 | 1,691 | (26) | 1,578 | (24) | 1,542 | (19) | 1,368 | (15) | 1,228 | (26) |
| 東紀州 | 144 | (0) | 142 | (0) | 115 | (0) | 110 | (0) | 104 | (0) |
| 計 | 12,314 | (224) | 12,108 | (69) | 11,785 | (60) | 11,270 | (64) | 10,497 | (67) |
| 前年比較 増減 | — | | -206 | | -323 | | -515 | | -773 | |

資料：三重県産婦人科医会調査、三重県助産師会調査

※ () は助産所での分娩数。() は分娩数の内数

※ 出張を行っている助産所の分娩数は助産所の所在地に計上

【資料 2】

③【分娩取扱医療機関の推移（三重県）】

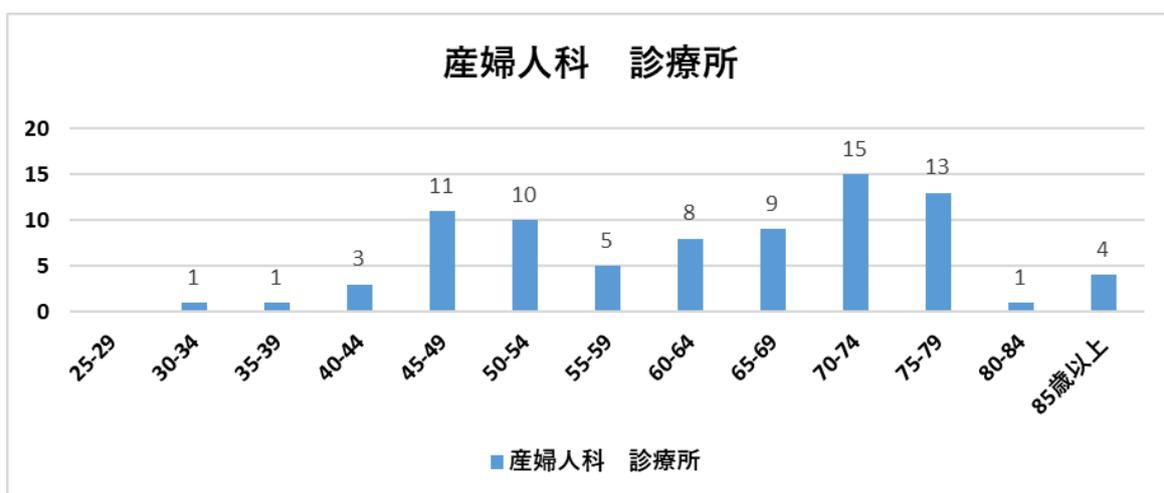
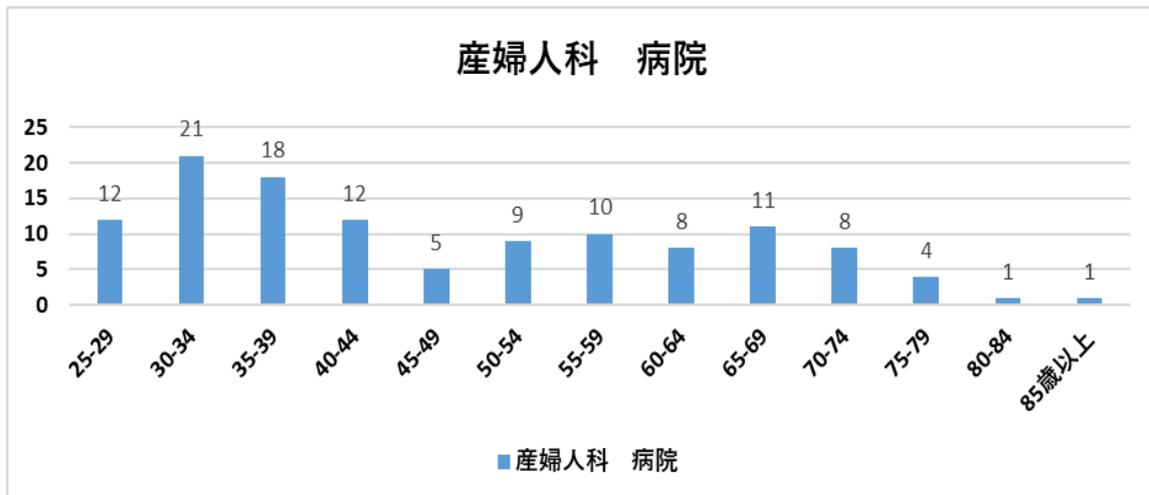
（単位：機関）

| 二次医療圏 | 産科医療機関 | H31.1.1 | R7.4.1(予定) |
|---------|-------------|---------|------------|
| 北勢医療圏 | 周産期母子医療センター | 2 | 3 |
| | 病院 | 5 | 4 |
| | 診療所 | 8 | 6 |
| 中勢伊賀医療圏 | 周産期母子医療センター | 2 | 2 |
| | 病院 | 1 | 1 |
| | 診療所 | 5 | 2 |
| 南勢志摩医療圏 | 周産期母子医療センター | 1 | 1 |
| | 病院 | 2 | 1 |
| | 診療所 | 7 | 4 |
| 東紀州医療圏 | 病院 | 1 | 1 |
| | 診療所 | 1 | 1 |
| 合計 | — | 35 | 26 |

資料：三重県調査

【資料 2】

④ 【年齢別の産婦人科医師数】



資料：三重県調査（令和4年）